

## 第1回行政経営方針策定部会の概要

## ○県の役割の明確化

- ・ 地方分権を踏まえないと、国と県、県と市町の間関係を上手く整理できないと思うので、県の役割の明確化を考える際には、地方分権を含めてはどうか。
- ・ 県の役割の明確化にあたっては、財政状況の見通しを踏まえると、スリム化を前提とせざるを得ないのではないか。
- ・ スリム化は進めざるを得ないが、県の本当の責任がありまいになる恐れがあるので、県と市町が最低限やるべきことを明確にする必要がある。
- ・ 市町への権限委譲は、財源の手当てもしているため、すぐにスリム化につながらないのではないか。
- ・ 市町が事務の移譲を受けるかどうかは、財源だけではなく、体制の問題もあるから、一律の移譲は難しいのではないか。
- ・ 地方分権の結果、市町村間でサービスの内容や質に違いが出ることはある程度想定されているが、住民の意識としては不公平に感じることもあり、県の役割を規定する際には、そういう住民意識や県民性も考慮する必要があるのではないか。

## ○効果的な財源シフト

- ・ 人口が減少していく中で、今の事業を前提とするのではなく、もう少し手続きを簡単にするとか、少し工夫して、他の業務を実施しなくてもよくするとか、先を見据えて考えてほしい。
- ・ 従来の事業が何のために必要か、ゼロベースで一步引いた形で見るとも、大切である。
- ・ 効果的な事業には予算を重点的に投下し、効果のない事業からは予算を引き上げるという理念はよく分かるが、効果が上がっているかどうかをどう測定するかという問題がある。それをやろうと思うと、膨大な作業量をつぎ込むことになり、それ自体どこまで効果があるのか、という議論も残る。

## ○多様な主体の参画

- ・ 滋賀県は割とNPOが多いと思う。多様な主体の参画には、非営利組織との連携を盛り込んではどうか。

### ○行政経営のスリム化・効率化

- ・ 職員のローテーションの期間について、効率化という観点からいうと、あまり短期間で異動するよりは、異動までの期間をある程度長めにしたほうが有効で、また業務をより深く理解したうえで業務に取り組めるようになるのではないかと。
- ・ 業務のスリム化は、他の部局の業務との間でのスリム化や統合も考えていかないとならないのではないかと。
- ・ 県の役割などを見直していけば、部局の統合なども可能性が出てくるかもしれない。スリム化にあたっては、その辺りを視野に入れて、大胆に切り込むことを検討してはどうか。

### ○組織力・職員力の向上

- ・ 職員の意識改革が、働き方改革につながる。職場の環境改善を、一人一人がしっかりと考えていくことが大事である。
- ・ ストレスチェックをするだけで、後のフォローをしないのではなくて、保健師を入れて徹底して取り組むことが、健康経営につながると思うし、行政はモデルとしても取り組んべきだと思う。
- ・ 働いている中で、ストレスを感じている点や、組織になじめないといった点をできるだけ解消していくことが大切であるが、一方で、気分よく働いている人にとって、モチベーションがあがるような仕組が用意されず、せっかくやる気がある人がやる気をなくしてしまうのは困るので、その分もしっかりと考えていく必要がある。

### ○目標の管理等

- ・ 議論の出発点としては、目標を設定し、管理していくことを認識しておき、目標の設定が不可能とならないように、取組の方向性等をあまりにも抽象的なものとしなないことを、この段階の合意にしておく。